

千葉市感染症発生動向調査情報

2020年 第8週 (2/17-2/23) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	8週	7週	6週	5週
小児科	18	18	18	18
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ*	28	28	28	28
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	2/17-2/23	2/10-2/16	2/3-2/9	1/27-2/2	2/10-2/16
			8週	7週	6週	5週	7週
小児科	RSウイルス感染症		6 0.33	1 0.06	1 0.06	2 0.11	21 0.16
	咽頭結膜熱	○	5 0.28	2 0.11	3 0.17	3 0.17	32 0.24
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	82 4.56	58 3.22	64 3.56	63 3.50	645 4.81
	感染性胃腸炎		66 3.67	69 3.83	128 7.11	138 7.67	653 4.87
	水痘		4 0.22	5 0.28	9 0.50	3 0.17	60 0.45
	手足口病		0 0.00	3 0.17	1 0.06	1 0.06	16 0.12
	伝染性紅斑		3 0.17	0 0.00	1 0.06	3 0.17	15 0.11
	突発性発しん		7 0.39	3 0.17	13 0.72	5 0.28	23 0.17
	ヘルパンギーナ		0 0.00	0 0.00	2 0.11	1 0.06	2 0.01
	流行性耳下腺炎		2 0.11	6 0.33	1 0.06	3 0.17	14 0.10
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		153 5.46	232 8.29	273 9.75	421 15.04	1,674 7.82
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		0 0.00	2 0.40	1 0.20	1 0.20	10 0.29
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		2 2.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.22
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(13件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	50歳代	IGRA検査	腸チフス	男性	60歳代	病原体の分離・同定
結核	男性	60歳代	IGRA検査	急性脳炎	男性	10歳未満	高熱及び中枢神経症状等
結核	男性	70歳代	病原体遺伝子の検出	梅毒	男性	40歳代	血清抗体の検出
結核	男性	70歳代	病原体の分離・同定	梅毒	男性	40歳代	血清抗体の検出
結核	女性	10歳代	IGRA検査	百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
結核	女性	30歳代	IGRA検査	百日咳	女性	10歳代	病原体遺伝子の検出
結核	女性	70歳代	病原体等の検出等	-	-	-	-

*第8週は、結核7件(27)、腸チフス1件(1)、急性脳炎1件(1)、梅毒2件(4)、百日咳2件(6)の発生届があった。

※ ()内は2020年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第8週のコメント

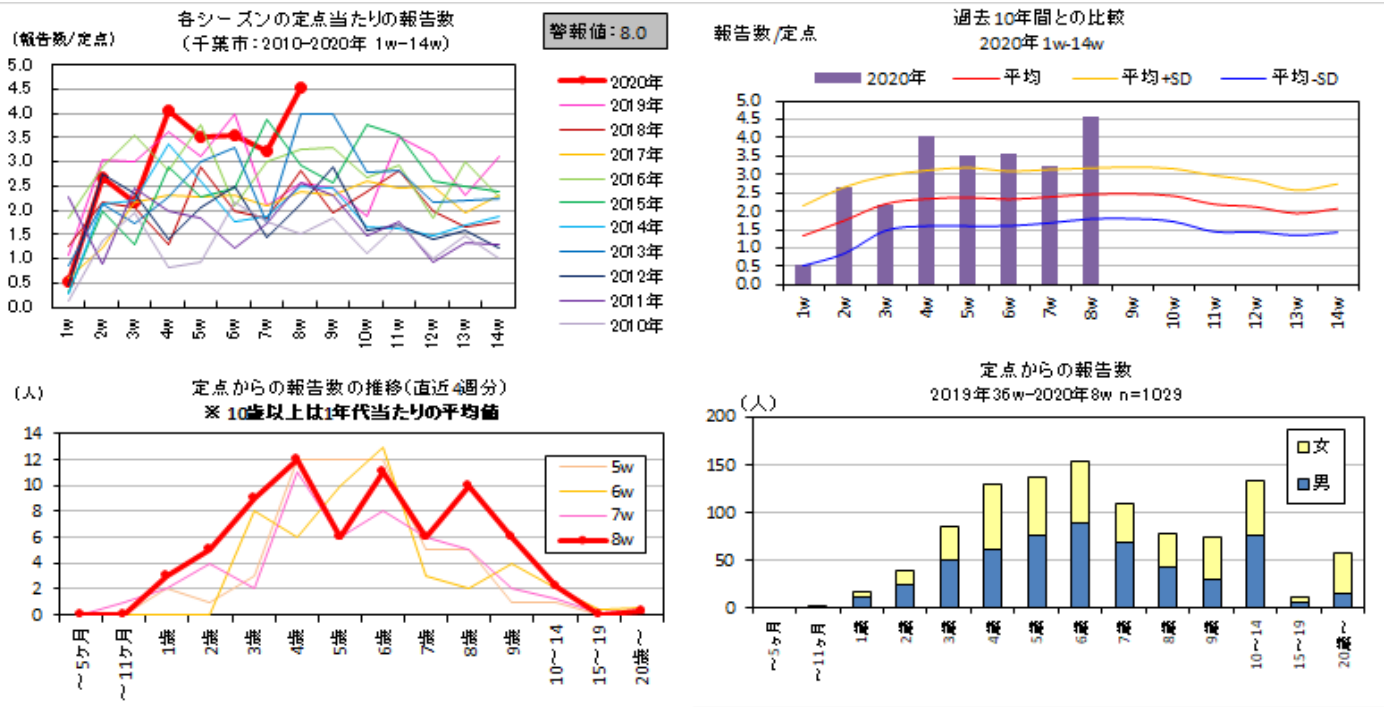
<咽頭結膜熱> 前週より増加し0.28となった。過去10年の同期と比べると最多。

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より増加し4.56となった。過去10年の同時期と比べると最多。

■ トピック ■

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの第7週の定点当たりの報告数は3.26となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では石川県、福岡県、新潟県及び富山県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は4.81で、全国レベルと比べると多くなっています。千葉市の第8週は前週より増加し4.56となり、過去10年の同時期と比べると最多で、現行の調査方式になった1999年以降でも最多となっています。区別の発生状況は、緑区(6.50/定点)で最多で、同区の6歳で最も多く報告がありました。今シーズンである2019年第36週から2020年第8週までの累積報告数は1029件で、性別では男性が53.7%(553名)、女性が46.3%(476名)となっており、年齢階級別では6歳(15.0%:154名)、5歳(13.3%:137名)、10歳代前半(12.9%:133名)の順で多くなっています。



<咽頭結膜熱>

全国レベルの第7週の定点当たりの報告数は0.38で、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では鹿児島県、山形県、佐賀県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.24で、全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の第8週は前週より増加し0.28となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。区別の発生状況は、緑区(1.00/定点)で最多で、同区の10歳代前半で最も多くの報告がありました。2020年第1週から第8週までの累積報告数は30件で、性別では男性が56.7%(17名)、女性が43.3%(13名)となっており、年齢階級別では1歳(23.3%:7名)、4歳(16.7%:5名)の順で多くなっています。

